



* 2020年の子供の日に寄せて

北海道知的障がい児・者家族会連合会(道家連)会員の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。また、施設事業所をご利用の皆様は、体調いかがでしょうか。

現在、コロナウイルスの感染拡大で、施設では帰省や面会の制限がされているところも多いことでしょう。通所サービスは停止しているところもあるでしょう。自宅待機の利用者さんの生活を支えている家族の皆様のご苦労も大変なものだと思います。

改めまして、水際で頑張ってお守りくださっている施設等の職員の皆様へ、厚くお礼申し上げます。平時と違う体制で、緊張の連続であると思います。先日、遠軽町の障がい者福祉施設でコロナウイルス感染症が発生しました。施設家族会の会長さんから、「施設、病院が迅速に対応してくれてそれ以上の感染が広がらず、初動から治療体制の整備まで施設職員の方の懸命な対応に感謝している。」と伺いました。

自ら手洗いの徹底やマスクの着用が難しい利用者さんもいるでしょう。その中で感染させてはいけない、と懸命に職務に当たられている皆様に感謝すると共に、私達親・家族も次のようなことで協力したいと思います。

- ◆ 会わない(ウイルスを持ち込まない)
- ◆ 自分たちが感染しない

私の子供は28歳ですが、「おかあさん、おかあさん」「ウチかえる」を繰り返して言う子供で、必ず子供の日には連れて帰っていました。この2月から定期受診も取りやめ、すでに2か月以上会っていません。きっと本人は理由もわからず、不安の中、我慢していることと思います。私が高齢者の方への仕事をしているので、収まるまで自宅で過ごさせることもできず、施設職員の方にお世話になっています。まずは、私達家族が我慢してコロナを終息させる事、施設の方に感謝を伝える事が、できる最善の事ではないか、

と考えています。

その上で、インターネットを使ったテレビ電話や LINE といった「オンライン」でつながれる利用者さんであれば、施設の協力のもと、顔を見ることでお互いに繋がれる方法も取れるのではないのでしょうか。

私達がコロナウイルスに感染せず、北海道、日本全体の患者数が減って来れば、それだけ早く子供たちの日常が戻ってくると思います。会員の皆さんともお会いできませんが、心をつないでこの苦難を乗り越えたいと思います。

生活が元のようにもどり、子供たちが通所に出かけられるようになり、面会や帰省が以前のようにできるようになったら子供をぎゅっと抱きしめてあげましょう。それまでどうぞお元気でいらして下さい。

2020年5月

北海道知的障がい児・者家族会連合会

安田由美